

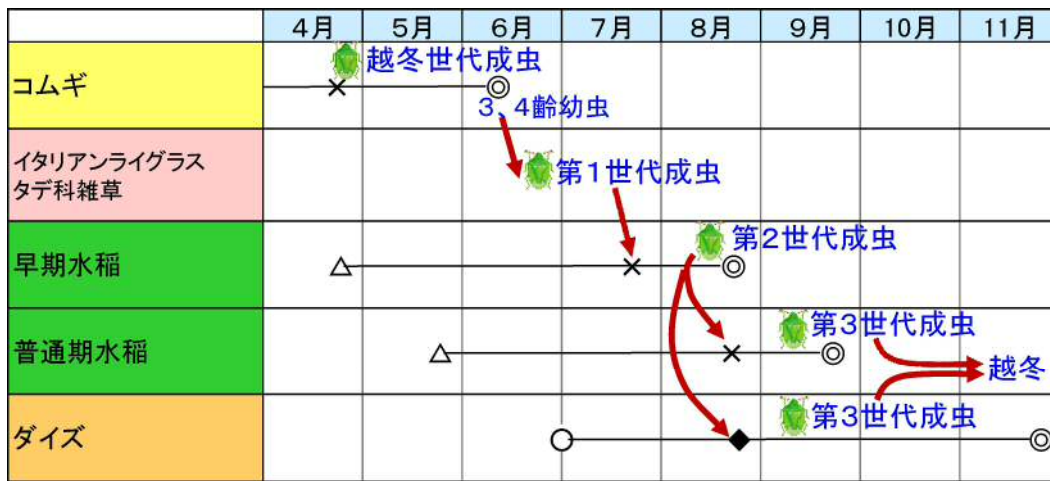
ミナミアオカメムシ情報第1号

平成27年6月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

1 コムギ及びほ場周辺雑草における発生推移（図1、図2）

小麦、水稻、大豆の輪作地帯では、ミナミアオカメムシの好適な餌が春から秋まで連続的にあるため、発生量が多くなる傾向があります。

越冬世代成虫は、5月中下旬にコムギに産卵します。ふ化した第1世代幼虫は、コムギの穂を餌として収穫前までに3、4齢幼虫まで成長します。収穫後は、ほ場内のタデ科雑草や畦畔のイタリアンライグラスに移動し、それらの子実を餌として成育し、6月下旬頃、第1世代成虫が発生します。第1世代成虫は早期栽培水稻に飛来、加害します。第1世代成虫は早期栽培水稻に飛来、加害します。



注) ○: 播種期、△: 移植期、×: 出穂期、◆: 開花期、◎: 収穫期

図1 輪作地帯におけるミナミアオカメムシの発生推移

コムギ

雑草

早期栽培水稻



収穫

①コムギで幼虫発生
(5月下旬～)



明きよに生えたタデ科雑草



畦畔沿いのイタリアンライグラス

②コムギ収穫後、雑草に移動・成育 (6月中旬～)



③第1世代成虫発生
(6月下旬頃)



④早期栽培水稻に
飛来・加害
(7月中旬～)

図2 コムギ及びほ場周辺雑草におけるミナミアオカメムシの発生推移

2 平成27年の第1世代成虫発生予測

- (1) 西三河地域（豊田市、安城市）で5月中旬に実施したコムギにおけるすくい取り調査の結果、越冬世代成虫の発生量は過去3年と比べて少ない方から2番目でした（図3）。
- (2) 名古屋地方気象台5月28日発表の気象予報によれば、向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並で、第1世代幼虫の成育に好適な条件が見込まれています。
- (3) 以上のことから、越冬世代成虫の発生量は前年ほど多くはありませんが、今後、成育に好適な条件が見込まれるので、発生量は増加すると予想します。

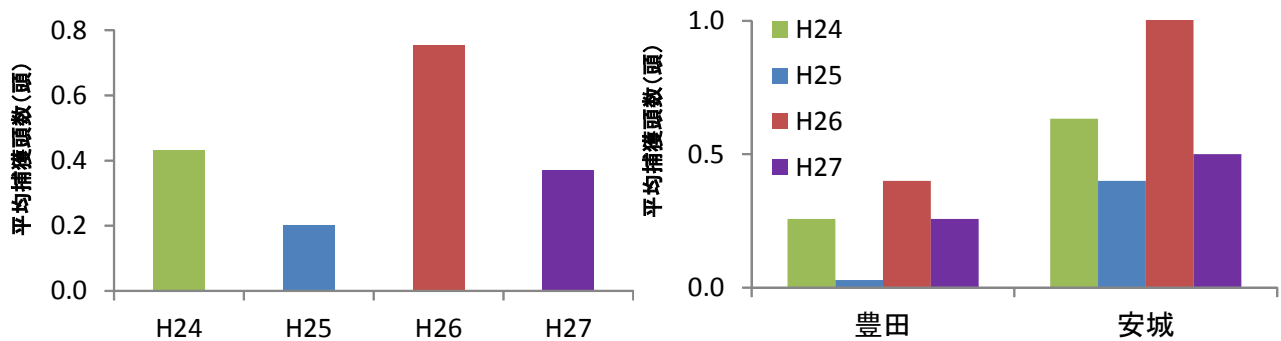


図3 西三河地域のコムギにおけるミナミアオカメムシの平均捕獲頭数
（5月中旬調査、捕虫網20回すくい取りの平均捕獲頭数）

3 防除対策

コムギ収穫後の第1世代幼虫の餌を断つために、①収穫前に畦畔のイタリアンライグラスを除草する、②コムギ収穫後、明きよのタデ科雑草を残さない、③大豆作付のためにほ場を耕起するとき、明きよ内の雑草を残さない（図4）などの除草対策を行いましよう。



①収穫前に畦畔除草を行う

②収穫後に明きよのタデ科雑草を残さない

③耕起する際に明きよ内の雑草を残さない

図4 コムギほ場における除草対策